



高業不振ヲ論ス

2524





114  
A3067

上

大正十一年四月  
侯爵寄贈



日本  
 帝國ハ去往二百年間外國ト絶文<sup>レ</sup>ニ其通信ヲ再<sup>レ</sup>開<sup>ク</sup>  
 ラ始メシハ今テ去ル十五ヶ年前ノ<sup>レ</sup>ニミテ其改革ノ  
 生ゼシハ何ナル源由<sup>ニ</sup>肇<sup>リ</sup>テ起<sup>リ</sup>シヤ今更推考スルニ  
 及バヤレドモ恐ラクハ避ケガタキ時期ノ<sup>到</sup>爾<sup>来</sup>ニ自然自國政  
 道ノ然ラズニル知<sup>ニ</sup>ミテ長ク鎖港ヲ支張<sup>ニ</sup>能ハカリシ  
 ヨリナラシ<sup>ク</sup>然レドモ前以相像ヤレシ如ク多クノ日本人重<sup>ク</sup>  
 ニ上等ニ位スル者ハ是ノ改革ヲ不好不平ヲ抱キ<sup>テ</sup>報國ノ情<sup>ヲ</sup>  
 ル<sup>者</sup>ハ外國人ト絶交スルヲ日本ノ幸福ト思察シ通信  
 スルハ危害ヲ引起スト推考<sup>シ</sup>又或人ハ只自儘ノ考案ヲ以



自分免許ノ奇体ナル説ヲ唱へ一般ノ康安ニ構ハサル者  
アリ斯ノ如キ大変革ハ最初是帝國ニ不快不順ヲ引起シ  
而シテ動搖セシムルハ更ニ驚クベカラザレバ其変革ノタメ  
ニ苦難ヲ受ケタル人ハ其ノ為ニ起リ一度々取撫リタルヲ  
解放シ外國人ヲ放逐シテ古来ノ風ヲ恢復セント欲スルハ  
自然ノ道理ナリ是ノ望アルヨリ終ニ六ヶ年前ニハ抗当スル  
孤ノ拳奮相生シ政道ヲ再成スルニ至シリ  
然レドモ旧習ニ立戻リガタカリシ故抗当ヲ起スル頭者  
ハ速ニ其ノ成リ行ク如ク新道ヲ用ユルニ他無カラシク知  
リ故ニ廣明正大ノ処置ヲ以テ新法ヲ置カレシ巴トラス萬

事ヲ交一ニシ華族平民皆政ヲ助ケテ開化ノ道ヲ勵マサ  
ント一致セシハ全世界中間化國ノ熱心感通ヲ引起セシ也  
然レドモ文明國ノ政亦ハ開化ノ人民ヲ要スル故多クノ人  
教育ヲ受ケ開化セガル時ハ少クノ人ノ智識ヲ以テハ即テ  
重大ノ障害ニ出逢フト明ラトナレリ故ニ種々ノ事業ヲ設  
テ方今人民ヲ教育セラザレバ頻テリ其ラノ事業ノ智識ト  
成功トニ付テハ何人モ疑ハガルハナリ何ントレハ右ラノ  
トニ付テハ人民皆而國恩ヲ被セントスル徵功日ニ相頭  
ハルニバヤリ  
右ノ如ク教育諸方ニ早進スル内ニ全ク進歩セザル様見



ユル外ノ一物アリ之ニ即チ商賈ナリ日本ノ交易商賈ハ  
今日ニ於テモ其模倣ニ於テハ殆レド首日ノ如ク只續カ  
ノ進歩ヲ生セシメテ政道法律兵學航海術ホニ於テハ  
都而新法ノ發軔アリ商法ニ於テハ不登只自然ノ勢ニテラ  
カレハ改正進歩セズテ續カノ扶助ヲ受ケシメ  
抑モ商法タル者ハ其レノミヲ以テ一ヶ國ノ人民ノ商業ト  
スルハ職務ノ格別ヲ要スル分<sup>課</sup>ニアラザル也而シテ  
日本ノ如ク鎖港シタル國ニ於テハ商法ハ只賤位ノ人民不  
慎ノ人ニ適カシタル者ニシテ賤卑ノコト見習ヒ或ハ不圖  
目ノコト思察サルハ珍キコトニアラザルナリ

斯ノ如ク以謂フ以テ日本ノ開化ハ其鎖港ノ間ハ遲延シタ  
リシヤラ明白ニ顯スルナリ何ントテレハ何レノ處ニテモ  
開化ノ進ムニ從ヒ交易商業ハ其人民ノ清血脈トナリ進  
歩スル人民ノ不且ヲ満足セシムル要<sup>用</sup>ナル者ト成ナリ又  
商法ハ智識ヲ實地ニ行フ直道タルヲ以テ各政府ニ於テ  
商業ヲ扶助スルハ其幕下ノ改正ト繁榮トヲ希望スレバ也  
更ニ商業ガ出產家具重ニ農家ヲ煥<sup>勵</sup>セサル間ハ彼等ハ自  
分ノ出產スル外ノ品物ノ分量或ハ品柄ヲ改正スル氣ガ甚  
ダ少シシテ自分ノ賣リ能フモノ出来ザルモノハ仕ラセザル  
故其物產ハ實ニ有限而シテ終ニハ惰慢不<sup>註</sup>意トナレ也



然レハモ右ニ及シテ治盛ナル交易商業ハ各出產家ヲ  
コテ自カニ及リ又ハ精々良法ヲ起シシメ其レガ為メ自  
然ニ勉強シテ事ヲ發明セントスル心ヲ起シ且ツ愼意ヲ  
起シ智識ヲ増シ至ル而シテ其富貴増スニ至リ亦メ不足  
ヲ生シ終ニハ住家衣服食類ニ至ル迄一位上等ノ者ヲ望ミ  
自分ノ仕方、機械物品等ヲ改正セシト自カラ盡カシ自身  
教育ヲ要セ而シテ子孫迄モ教育サセシム 斯レテ終ニハ  
直打アル人ト成リ右ノ如キ貴便ヲ起サントシテ自然ニ  
商業ヲ慣服スルナリ  
然レドモ割合ニ小キ國ノ国内已ノ商法ニテハ右ニ速ル如キ肝

要ニ成果ヲ生スル能ハズ則チ支那ノ如キ大帝國ニテ許多ノ  
郡郡アリ莫大ノ人口アリ國ニ於テスラ他國トノ交易商法  
ヲ禁止セシ時ハ其ノ開化モ不進 今且近外國トノ交際ニ付  
其國政并ニ民衆ノ不習ナルハ其ノ進歩ノ道ヲ止メ而シテ  
世上ニ最モ國民多キ國ヲミテ内部ニハ不順序ヲ顯シ外部  
ニハ危險ヲ顯ス是レ則チ其國ニ於テ榮少ノ抵抗カラ持ツ  
以謂ナリ  
他國ト開化ヲ均シ民カラ平均セシト欲スル國ニ對シテ外  
國トノ交易商買ハマダクモ人間ニ衣業ト体ノ運動トノ肝要  
ナル如ク大切ナル者ナリ但シ其人ハ身ニ健康ヲ望ミ自分ノ身



俾テ守リ且親族ヲ防守スル勢カヲ欲スル人ニ云  
日本國ハ開化ヲ得トシ其人民ヲ彊クシ進歩ト繁栄ト  
ヲ得セシメントス然レトモ今日近其成果ヲ期シタル最モ  
速ナル法ヲ急ナリ外國トノ交易ハ既ニ是レ國ヲ益セテ  
明クシリ何レトナシハ是レヲ賣ント欲スル者ハ外國人等買  
テテ得又外國人ホ賣ント欲スル者ハ日本人ノ要スル者ナ  
ハナリ

然レトモ日本國ノ富ト活盛ナルヲ起セシハ之全ク是國  
ニ商業ニ液来シタル方カノ外國人ヨリ生シタルナリ而  
シテ彼等ノ入用ナル物ト産スル物トヲ日本人ニ知ラシムルニ至リ

右等ノ外國人ノ最重ナル故障ノ一ハ則チ商買取引ラセズ  
ニハナラガレ日本人ノ無學ナルト企心ノ無キト資本金ノ  
無キト不慣ナルヲ以テ最上トス何人ニテモ日本商人ヲ  
實見ニタル人ハ日本人ハ多ク交易商買ノ法律仕方並ニ  
成果等ノヲニ付テハ更ニ構ハズ且ツ其ラノヲハ更ニ知ラズ  
者ト思察セズンハナラズ只右等ノ日本人ノ目的トスル如ク  
物昂ラ安價ニ買ヒ高價ニ賣テ以テ主意トシ而シテ信實  
身慎等ニ至テハ更ニ構ハズ者ト見ユルナリ尙商業ヲ  
尊敬スマキ且ツ面目アル法方ニ行フ考ハ日本人ノ心中ニ  
ハ無キ者ト見ユ又其商人等ノ用マキ品材ノ用方始終



等ニ付テハ殆ド確タル昔文ヲ不保又諸事ノ記傳運輸  
便宜ノ法、未來ニ起ルマキヲ智考外國ニ輸出スル高用品ノ  
正直ナル且ツ便宜ナル包方商業取引ノ性質、不テ信實  
ナルヲ或ハ精密駁速ナルヲ依リテ無用ノ時間ヲ省  
ク等ハ便利ハ殆ド是ヲノ日本人ニハ知ラレザルヲ見ユ  
ル下リ而シテ大概ノ人ハ顯在ノ損益已ニ考ヘ未來ノ  
ハ構ハ不且ツ職業工ニ高名画目等ヲ望ムノ氣色ナキ者ト  
見ユ  
當時日本ノ品ニテ外國ニ相度ノ立居アルハ只其ノ茶已ニ  
故其良名ヲ得保シトスルハ今最モ所要ナル者ナリ然レ

之レニ對シテ外國人ヨリ生スル效驗ハ實ニ反對ナリ之レ則チ  
新茶ニ古葉ヲ交セテ差色スルノ偽策ヨリ起ルナリ  
是ノ策ハ追々増加セシト見ユル故其ラクハ日本ノ商人等  
ハ欺偽ニテ利ヲ得ルヨリ正直ニシテ利潤ヲ得ルヲ終ニハ益  
アルヲ知覺シ能フ前ニ茶ノ商業ヲ零落スルヲラカ  
何人シモ日本ト商業ヲ成ス外國人ハ古ノ如キ有様ハ親シ  
ク知ルルナリ而シテ回探ナル偽策ヲ以テ抵抗セシヲ好マズル者  
ハ常ニ是ノ有様ヲ悲艱ス是ノ有様ヲ以テ多クノ人勢カラ失ヒ  
且ツ損失ヲ致セリ故ニ或ル外國人ハ通例日本人ハ誤偽アル者  
ト思察ス然レモ之レ全ク一種ノ人民ヨリ起ルニシテ其ノ人ノ



氣質ノ低劣ナルト無学ナルトニ基クモノナリ

是ノ不良ヲ改正ラ商人自身ノ成行ヨリ生ゼテラシムルハ實ニ  
難キヲナリ彼等ノ多クハ目下ノ利益ニシテ居シテ物ヲ改正スルヲ  
不好ク存在ノマニ成シ置ラ以満足ス而シテ学ヲ学スルヨリモ寧ロ  
無学ノハタラシク望ム者多シ

右等ノ改正ハ上等ニ位スル人ヨリ起ラサレハ成ラザルルリ若シ  
上等ノ人商業ニ関スルニ至ラバ其業ノ位置登リ随而下等ノ  
人ハ改正スルナリ而シテ上級ノ人商業ニ関シ其レガ為メ幾早ニ  
階<sup>階</sup>ノ惠ナカルマシ蓋シ外國ニ於テハ庶民諸法ヲ以テ商業ニ係ル  
ト虽民権上下ノ區別ハ自カラ判然ナリ尚上等ニ位スル人ハ

其ノ行状ヲ以テ通例明白ナリ

上等ノ人只商業ニ関スルニ以テ充分トスバカラズ上等ノ人ハ其ノ  
威光ヲ自ラ賤落セズ其ノ業ヲ増益セシ為メ高上ノ法方  
ヲ以テ身体ヲ扱フテ肝要ナリ然ラサレハ其ノ人ノ為メ慶何  
ノ甲斐モ無ルベシ是ノヲ為スニ成功ヲ期シタルハ他ニアル  
マシ蓋シ是ノ國ノ人民ハ常ニ高等ノ人ヲ尊敬シ且ツ是ノ國ノ商  
業ハ今改正ヲ要スル時ナリ

若シ学校ニ於テ商法ヲ教育シ能フ時ハ斯ノ如キ学校ヲ既  
ニ建築アレバ日本ニテ其利益若クヤ然レドモ諸國ニ於テ商  
法ニ関スル人ヲ教育スルハ只議論上ヲ以テ或ハ書籍ヲ以テ或



或ハ學術教師ノ助ケラフ以テ或ハ其他其ニ類ニタル術テラフ  
テハ出来カタク只實驗上ラフテ已ニ教道ヲ能クハ既ニ明ラ  
ナルハナリ又日本國タリトモ然リ故ニ是ノ目途ニ付テハ石  
等ノ外ノ法方ヲ用エルニ他ナカルマシ

是ノ記者ハ是事件ニ付テ諸國ニ於テ長年實驗ニタル輝光ヲ  
以テ考ヘ而シテ商業教道ノ法ヲ宣言セトス彼ニ業スルニソ  
ノ法日本ニ於テハ成功ヲ期スルナラン

其法方則ケルニ述ブ

第一商業ノ會社ヲ組立ルニ而シテ其會社ハ政府ノ扶助ヲ受ケ  
日本國內并ニ外國ニ於テ自由ニ商業スルノ權ヲ持シ其業ニ屬次スル

萬事ヲ取扱フ權ヲ持マシ

第二其會社ハ只上等ハレヲ以テ組立マシ而シテ其會社ハ高名  
セシ為メニ政府ヨリ名譽アル名ヲ受ケマシ

第三其資本金ハ十ノ一トモ五者内ニシテ便宜ナル株高ニ分ツマシ  
而シテ右株主ハ其株高ニ從テ損益ノ分配ヲ受ケマシ

第四其會社ニテハ其社ノ支配人ヲ總代人ヲ撰シ行業ヲ司  
サドラシムマシ而シテ毎一年一度リ、政府ニ其社ノ成果ヲ上

書シ其書正直貞實ナルヲ以テ政府ヲ臨見サスマシ  
并ニ其職業ノ扱ハ英語ヲ用ヒ且ツ其算計書等ハ外國ノ  
法ヲ以テスマシ



第六 政府ヨリ支保扶助アル迄教トシテ且之商法学校ノ一  
助ヲラシメシタメ其會社ニテハ人負ヲ極メ每年年期奉公  
人ヲ受ケ其商業ニ用ユマシ其奉公人ハ文部郷之命スル  
ルニシテ其人ハ其社ノ規律ニ從テ其職業ヲ扶助スマシ  
然ラハ其迄教トシテハ其會社ヨリ相当ノ給料ヲ受ヘ其ノ職業ノ  
事務算計勘定且ツ音信往復ノ教授ヲ日ニ支フマシ  
是ノ奉公人ハ功ヲ顯ス時ハ迄期ハ後ニ其會社ヨリ免許状ヲ  
受ケ昇級スマシ若シ不行状ハ或ハ不適當ナル時ハ放逐サレ  
ベシ

右ヲ造立シ其成果ハ則チ

第一 政府ニテハ外國トノ交易商法ヲ改正シ盛大ニ學  
ビ且ツ其職ハ面目アリシヲ棄テタラシムル人民ニ顯ス

第二 今日本ニテハ外國ト商業ヲ取引ルニ全ク外國人ニ依賴  
ストモモ其勢ヲ免カル

第三 外國商業ノ性質情實ノ記傳、如用並ニ成果、精報  
ヲ備フル

第四 官私ノ人ヲシテ今外國人ニ通商ノ語文ニテ得ル如ク檢査  
並ニ其外ノ品ヲリトモ日本人ノ一社ヨリ相当ノ直價ヲ以テ買  
得ルニ至ラシムル

第五 是ノ會社ニテハ輸出品ヲ買入ルル多ク國內ノ其總代人



ラ<sup>派</sup>出スルハ然ル時ハ其總人等ノタメニ多分茶烟草等  
其他所要ナル品ノ製造人ヲシテ其品柄并ニ包ミ方等ハ  
不充分ナル者ヲ改正セシムル操道クニ至ラシ 外國人等ハ今モ之  
等ノ目的ヲ成カシメ為メ内部ヲ旅行スルハ禁制ナレバ是ノコトヲ  
成シ能ハサル者アリ

第六 今モ外國トノ商業ニ付日本人ノ資本金ハ全ク取扱モ  
ノヤレドモ便宜ナル法ヲ以テ其レヲ用ヒ且ツ何人ニモ利益見  
得用スル 加便ナル取扱ヲ以テセバ資本金ハ増加シ其會  
社ノ面目ヲ増シ長カラシムル其會社ハ政府ノ貸金或ハ  
公用ヲ達スル勢強ノ機關トナラン

第七 外國人ト商業ヲ競ニテラ疑望シタル若キ人ヲ教育シ其  
商業ノ増盛スルニ依リ廣大ナル且ツ面目アル法ヲ商法ヲ理リ  
司ル人ヲ日本國ニ供備スルコト

今右ニ論辯ニ起企セント欲スル仕オヲ行業ニ能フコトハ則チ  
三ツゼラント、トレイディング、ソサイエチー社中ノ履歴ヲ以テ判然タル  
ルヤリ 抑モ其ノ社ハ和蘭國國高時ト比較スル時ハ未ダ貧  
ニシテ且ツ何ヲモ不操ル國タリシ時外國トノ商業ヲ盛進  
セシメ和蘭國政府ニ於テ造立セシ者アリ 其社ノ成功則  
チ昨今元手金ノ数百万弗アルヲ以テ見ルマシ 而シテ其社ノ繁栄  
榮セシ巴チラス 其ノ例ニ從テ終ニハ和蘭國ノ交易ヲ諸方



ニ盛廣シ今其國ノ民數ヲ以テ考フル時ハ世界中ノ最モ富  
貴ナル國ノ一也其ノ會社ハホタニ存在ス而シテ既ニ政府  
ヨリ扶助ヲ受クルヲ止メシハ久年以前ノフテシドモ今日迄  
屢ニ政府ノタメニ肝要ナル勤ヲ成シ能フナリ

方今斯ノ如キ一會社ヲ組立ルハ甚タ適宜ノ時限ナリ  
日本ヨリ輸出スル最上ノ或品ハ代價下直ナリ而シテ其等  
ノ品ノ輸出ハ今安全ナル基礎ヲ以テ始メ能フナリ 許多  
外國館昨今損失ノ多キ以テ勢カラ失ヒタル故以前ノ如ク  
廣大ノ商業ヲ成シ能ハラン然レト外國トノ商法ニ於テ  
是迄ノ如ク輸出入共相ヒ争フコト少カラシ故ニ是ノ商社

ニテハ利益ヲ得ル商ニ於テ時節ヲ得其ノ上輸出入品共  
其ヲ用ユル人ノ為メニ是迄ノ如クアルヨリ却而良  
キ法ヲ用ヒ大ニ便利ヲ起スナラン

今是ニ添ママキ一言ハ則チ其ノ會社ノ成功ハ其ノ職業ヲ  
司ル人ノ氣質ト能力トニアリ 而シテ何人ニテモ職務力  
ヲ良シ扱ハシ為メニハ彼等ハ諸カカラ司ル全權ヲ握リ其ノ  
事務ヲ引受テスルヲ肝要トス 故ニ信用スマキ人巴ミヲ要シ  
其ノ人ニ全務ヲ任スヲ以テ是ノ社ノ規則ト成スマシ

六百七十四年  
十一月  
於橫濱







